

情報活用単元デザインシート

学年・教科	4 年 国語科・総合的な学習	単元名	調べたことをほうこくしよう
時数	1 7 時間（本時：1 5 時）	日時	令和 3 年 1 月 27 日（水） 14：50～15:35
場所・教室	4 年 1 組 教室 （東中本小学校 4 年 1 組・2 組 教室）	授業者	李 貴 子 （東中本小学校 草薙 真希子・吉河 晶子）
単元のねらい（目標） ○ アンケートの結果について、分かりやすく伝えるために、話の構成を考え、話し方を工夫して話すことができる。			

単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。 ・ アンケートを行って収集した情報を整理し、要点をまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 ・ 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えている。 ・ 文字・表・グラフ等を組み合わせてポスターを作成し、調べたことや自分の意見を表現できる。 ・ 調べたことを、相手にわかりやすくプレゼンテーションできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学習したことや発表の経験を振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しを持って、粘り強く相手に伝わるように話の構成を考え、話し方を工夫して、調べたことを報告しようとしている。

指導にあたって

（１）児童観

本学級の児童は進んで読書している児童が多い。調べ学習においては、全体を通して見ることができるためか、書籍から調べることも多い。画像や不足している情報についてはWEB ページも活用しながら取り組んでいるが、若干苦手と感じている児童がいる。情報活用においては、NHK for School の番組「しまった！」を視聴し、メモの取り方、WEB ページの検索の仕方、新聞のかき方などポイントをまとめて学習してきた。しかしながら、国語科の「新聞をかこう」では、調べた内容を要約することができない児童が多かった。そのため同じく国語科の「くらしの中の和と洋」で各段落から要点を見つけだし、接続語を用いてまとめるよう学習した。その後の「和と洋をしょうかいしよう」では、参考文献の中から必要な情報を選び出しまとめることができるようになってきた。「ふるさとの食を伝えよう」ではWEB ページや書籍から情報を集めリーフレットを作成した。情報活用を育成するうえで必要となる力「集める・まとめる・作る・伝える」を意識し指導してきたが、複数の情報の中から必要な情報を取り出すことなど、情報活用の力に課題が残る児童が多い。

ICT の活用においては、「発表ノート」を使ってプレゼンテーション資料を作成することや、協働学習アプリ「コラボノート」を使って新聞づくりや図画工作科の作品振り返り・鑑賞のワークシートに入力することを行ってきた。文字入力については、キーボード練習アプリを活用して習熟を図るようにしている。

本校は、全学年単学級で編成されており、本学級児童も４年間クラス替えなく育っている。気

心が知れているので、何か伝えたいことがあっても短い会話で全て通じてしまう。そのため、「伝える」ことへの相手意識が十分育っていないと感じ、今回は同じ中学校校下である学校との交流を考えた。しかし、コロナ禍であるため対面での交流が難しく、「コラボノート」やオンライン会議アプリを活用して、交流を進めようと考えた。2学期中ごろより、東中本小学校と合同の班を作り、「コラボノート」上で自己紹介を行った。2校が同時に自己紹介文を入力し、文字での会話のできたので、児童は初めての経験に大変喜んでいて。その自己紹介に対して改めて付箋機能を使って質問をしあったり、コメントを入れたりして交流をもった。両校とも交流が新鮮だったようだ。その後、オンラインで各校の特徴や良いところ、それぞれのクラスの良いところを紹介し合って交流した。3学期に入ってから、本単元の学習において調べる観点・アンケート内容を共通のものにするため、「コラボノート」やオンライン会議アプリを通して、グループ作業を行ってきており、画面を通したコミュニケーションに慣れつつある。

（２）教材観

本単元の目標は「アンケートの結果について、分かりやすく伝えるために、話の構成を考え、話し方を工夫して話すことができる。」である。本単元でわかりやすく伝えるためのポイントは、二つあると考える。一つ目は、図や表、グラフを効果的に使って、資料をどのように整理するとわかりやすい報告になるかを考えること。二つ目は、実際の報告場面で、どのような構成や順序で話すとよいかを考えて話すことである。

今回、児童が意欲的に活動に取り組めるように、アンケート結果についてのプレゼンテーション資料を作成し、同じ中学校校下の東中本小学校の４年生と合同発表することとした。

グループでプレゼンテーション資料を作成する際には、１人１台のタブレット端末を使用し、複数の児童が同時に同じシートで作業を進めることができる協働学習アプリ「コラボノート」を活用する。「コラボノート」には、１シート（一観点）に東中本小学校と今里小学校の両校の結果を併記した資料にし、両校の生活の様子を比較ができるようにする。両校のアンケート結果を集約し、資料をまとめ、資料を作成する、両校の結果を比較し自分の考えを伝える、という情報活用の学習を進めていく。

合同発表では、オンライン会議アプリで両校をつなぎ、離れていても同じ資料を見たり、作業を進めたりすることができる「コラボノート」で資料の提示を行う。話し手、聞き手の双方が離れているために、話し手は「話す速さや声の強弱に気をつけて話す」「聞き手を引きつける表現を入れて話す」「見てもらいたい資料の示し方を工夫する」などのポイントに気をつけながら、発表の構成を考えさせたい。また、同じ学校、同じクラスでない児童の発表を聞くため、「報告された内容について、自分なりの考えを持ちながら聞く（自分たちと比較する）。」「どの報告に対しても、感想や質問をする気持ちで聞く。」などのポイントに気をつけながら聞くよう意識させたい。

近隣校との合同発表に取り組むことで、相手意識をもったコミュニケーション力の育成を効果的に図ることができるのではないかと考える。

（３）指導観

本単元では、アンケートの結果について、分かりやすく伝えるために、話の構成を考え、話し方を工夫して話す力を身につけさせたい。

まず、アンケート作りである。アンケート作成の際には報告の目的やねらいを明確にし、相手意識をもって質問を考えさせ、質問方法も選択式や記述式をうまく組み合わせられるよう助言する。また、アンケートの結果を予想させながら進める。予想させることで、この質問で調べたいことがわかるのか、答える側にとって答えにくい内容となっていないかなどを考え、集計後に自分たちが考えた予想と比べてどうだったのかなど、発表内容を原稿にまとめる際にまとめやすくなると考える。

次に、アンケート結果を整理・集計する。資料の表現としては、図や表、グラフなどがある。そこで、NHK for School「しまった！～表とグラフで表現する～」を視聴し、表にまとめることで伝わりやすくなるか、ランキング形式でまとめたほうが伝わりやすいか、グラフにしたほうが良いのかを考えさせる。グラフも棒グラフ、折れ線グラフについては算数科で学習済みなので、

円グラフも含めてグラフの特徴にも気づかせたい。資料作成とともに、報告内容の構成も考える。「話の中心が明確になるような構成」とすることを意識させる。文章の基本構成である「始め・中・終わり」の順序で構成するが、「中」の部分がアンケートの結果になることをおさえる。報告の流れとしては、何についての報告か、調べた結果はどうだったか、予想と比べてどうだったか、結果から考えたことは何か、の四つの柱を基本に話す内容を考えさせる。

報告会に向けては、NHK for School「しまった！～話す力を高める～」を視聴し、聞き手を意識した発表ができるようにする。画面の向こうの相手にも分かりやすいように、どのような呼びかけをするのか、資料の提示の仕方はどのようにすれば伝わりやすいのか、を本時で気づかせたい。

最後に、報告会では同学年との生活を見つめる内容での交流となるので、資料や報告を両校で比較し、質問や感想を交流し合いたい。

指導の流れ(国語科 10 時間、総合的な学習 7 時間)

時	学習活動	ICT 活用のポイント	指導上の留意点
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の見通しを立てる。 ・ 自分たちで決めたテーマについて調べて報告するという学習課題をつかむ。(各校で) ・ テーマをグループごとに決める。(合同で) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「コラボノート」を使用し、東中本小と調べる話題をグループで共有することができる。 ○ Teams を使用し、東中本小と調べたい内容についてグループで相談することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 聞き手を意識しながら話すことが重要であることに気づかせる。 ○ 調べたい内容について、どうして調べたいのか自分の考えを伝えさせる。
3 ～ 7	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートのとり方を知る。(各校で) ○ 話題を決めて、アンケートを作成する。 ・ 聞きたい質問を、コラボノートの付箋機能を使って入力する。(各校で) ・ アンケートを作成する。(合同で) ・ アンケートを作り、結果を予想する。(合同で) ○ アンケートを実施する。(各校で) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「コラボノート」を使用し、東中本小とアンケート内容をグループで共有することができる。 ○ Teams を使用し、東中本小とアンケートの内容をグループで相談することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケートは自分たちの生活を見つめなおすために実施するという目的を確かめる。 ・ ぜひ聞きたい質問は何か。 ・ 両校の違いが出る聞き方はあるのか。

8 (12	<p>○ 結果をまとめ、報告する内容を整理し、資料を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの結果から分かったことや考えたこと、予想と比べて気づいたことなどを話し合う。 ・ NHK for School を視聴し、アンケート結果のまとめ方を確かめる。 ・ 報告する内容にあわせ、適切な表現方法について考え、プレゼンテーション資料を作る。 	<p>○ 各校のアンケート結果を「コラボノート」で共有することができる。</p> <p>○ NHK for School「お伝と伝じろう～プレゼンテーションをしよう～」を視聴することで集めた情報をうまく伝える方法を視覚的に確認することができる。</p> <p>○ NHK for School「しまった！～表とグラフで表現する～」を視聴することで、アンケート結果の資料作成について内容や集計の結果の表現方法として、表が適切かグラフが適切かを考えるヒントとなる。</p> <p>○ タブレット端末で資料を作成することで、表やグラフを容易に作成できたり、グループで見直しながら作成したりすることができ、修正も簡単にできる。</p> <p>○ 「コラボノート」を活用することで、遠隔でも児童が同時に同じシートでの作業を進めることができる。</p>	<p>○ 資料をどのように整理するとわかりやすい報告になるか考えさせる。</p> <p>○ 視聴の際には、大事なことをワークシートに書きとめ、プレゼンテーション作成の際に確認できるようにする。</p> <p>○ 図表やグラフなどの資料の形式を、話す内容に合わせて選択させ、作成は指導者が支援する。</p> <p>○ アンケート結果を集計して表などにまとめ、気づいたことや両校の違いなどは箇条書きで整理させる。</p> <p>○ アンケート結果を分析した際にさらに調べたいことが出てきた場合はインタビューをしたり、インターネットを活用したりして調べるようにする。</p>
13・ 14	<p>○ 発表の組み立てを考え、相手意識を持って話す練習をする。</p>	<p>○ NHK for School「しまった！～話す力を高める～」を視聴することで聞き手に伝わりやすい話し方や、人の興味を引き付ける話し方を視覚的に確認することができる。</p>	<p>○ 視聴の際には、大事なことを書きとめ、グループで話し合い、話し方のチェック表をみんなで作ることで、発表を聞くときの観点がぶれないようにさせる。</p>
15 (本時)	<p>○ 東中本小の同じテーマで調べたグループと個別交流し、作成したポスターを用いながら話す練習をする。</p>	<p>○ 「コラボノート」を活用することで、遠隔でも同時に同じシートを見て、作業を進めることができ、また付箋機能で良かった点や改善点を伝え合うことができる。</p>	<p>○ それぞれに作ったチェックリストを使って、発表を聞き、改善点を助言するように伝える。</p>

16	○ 聞き手を意識した発表原稿を見直し、発表の練習をする。 ・ 東中本小のアドバイスをもとに、資料や原稿の修正をし、グループ内で確認する。	○ 「コラボノート」を活用することで、複数の児童が同時に同じシートでの修正作業を進めることができる。	○ 改善点の助言をもとに、発表原稿の修正をしたり、話し方を改善したりして、再度練習するようにする。
17	○ 東中本小と合同で発表会を開き、単元の学習を振り返る。	○ 大型モニタで Teams の画面共有機能を使用することで、各クラスで同じ資料を共有することができる。 ○ コラボノートを使用することで、それぞれの意見を各自のタブレット端末で入力することができる。	○ 話し手にとっての留意点を再度確認するようにする。

本時の学習（第15時）

（1）本時の ICT 活用について

授 業 形 態	<input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> ペア学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT 活用の場面	<input type="checkbox"/> 導 入 <input checked="" type="checkbox"/> 展 開 <input checked="" type="checkbox"/> ま と め
I C T 活 用 者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児 童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT 活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> ペアの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活 用 機 器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 大型モニタ <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末 <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用コンテンツ等	<input type="checkbox"/> コラボノート <input type="checkbox"/> Teams
ICT 活用のポイント	<input type="checkbox"/> Teams を使うことで、離れていてもグループ交流ができる。 <input type="checkbox"/> 資料は各自のタブレット端末のコラボノートで使用することで、遠隔であってもそれぞれの資料が確認しやすくなる。 <input type="checkbox"/> コラボノートに入力し合うことで、視覚的に課題を見ることができる。原稿の改善できた内容については、チェックを入れて確認することができる。

（2）目 標

- 東中本小のグループと発表をしあい、チェックリストを参考に良かったところや改善点を伝え合う。
- 聞き手を意識した話し方を考え、分かりやすい報告にするための練習をすることができる。

(3) 展 開

学習活動	☆ICT 活用のポイント ◇指導上の留意点	使用機器 コンテンツ	評価
○ 本時の学習課題を確認する。	◇ 本時の学習課題を確認し、振り返りができるようにする。		【学びに向かう力】 ・ 本時の学習課題に意欲的に取り組もうとしている。 (行動・発言)
わかりやすく伝えるために、東中本小と発表の練習をしよう。			
○ 前時の各校でのグループでの報告練習をもとに、東中本小と遠隔報告練習をする。	◇ お互いの発表を遠隔でチェックしあうことで、目の前にいない聞き手に伝えるために気をつけるべきことに気づくことができるようにする。 ◇ 両校の違いや似ている所に気づき、考えを伝え合えるようにする。 ☆ Teams を使うことで、離れていてもグループ交流ができる。 ☆ 資料は各自のタブレット端末のコラボノートで確認することで、遠隔であってもそれぞれの資料が確認しやすくなる。	タブレット端末 Teams コラボノート	【思考・判断・表現】 ・ 相手に伝えるように話の中心が明確になるように話の構成を考えている (発言・原稿・チェックリスト)
○ コラボノートで東中本小への感想や改善点、質問を入力する。	◇ チェックリストを使用し、改善したほうが良いところやよかったところを伝えあうようにする。 ☆ コラボノートに入力し合うことで、視覚的に課題を見ることができる。 ☆ 原稿の改善できた内容については、チェックを入れて確認することができる。	タブレット端末 (児) コラボノート	【学びに向かう力】 ・ 聞き手に自分たちの思いが伝わるようにするには、どのような注意点があるかを考えて話し合っている。 (行動観察・チェックリスト)
○ 離れた聞き手に伝えるためにはどのようなことに気をつければよいか、気づいたことを学級で共有する。 ○ 本時の振り返りをする。	◇ 次時では、コラボノートの意見をもとに、原稿の修正を行うことを知らせる。		

わかりやすく伝えるために、東中本小と発表の練習をしよう。

○学習の流れ

- ・ Teams をつないで東中本小の友だちと発表練習をする。
- ・ 気づいたことをメモに書く。
- ・ メモに書いたことを入力する。
- ・ 「自分で気をつけよう」と思ったことを書く。

○まとめ

- ・ うまくできたこと
- ・ 直したほうがよいところ

○チェックリスト

- ・
- ・
- ・

(4) 授業を終えて

①成果

- 普段話さない児童と交流したことで、「相手に伝わりやすく話す」という相手意識をもって話すことができた。
- 遠隔で同学年の児童と交流したことで、普段の授業よりも意欲的に取り組むことができた。
- 今回は2校で合同のグループを作った活動となった。双方向会議アプリを使用したことで、普段接することのできない児童とグループ活動を行うことができた。
- 今回の活動を通して、「いつでもどんな場所でも、オンラインでつながって学習できる」ということを体験できた。

②課題

- 担任が同じ空間にいないため、また各校の行事などの関係もあり打ち合わせがしにくかった。
- 今回は単元内で複数回、グループ活動を行ったが、交流の時間(校時)を合わせるのが難しかった。
- 学校によって単元の進度が異なるため、交流相手校を年度当初に探し、カリキュラムを早めに両校で相談し、スケジュールを組む必要がある。
- 今回のようなグループ交流を進める場合、一つの教室内でそれぞれが Teams をつなぐとハウリングを起こすなどの事態があるため、マイク付きヘッドホンを用意するなどの環境設定が必要である。また、通信状況にも大きく影響される。



相手校とアンケートについて、グループ
ごとに話し合っている様子



相手校と発表を聞き合っている様子